



多彩なライフスタイルを描くまち 真庭

Maniwa Public Relations

広報真庭

1
2019

第165号

主な記事

- 新年のごあいさつ P02~
- 特集 ふるさと P04~
- 市政トピックス P10~
- お知らせワイド版 P12~
- 真庭が好きっ読者の広場 P20~
- 健康のススメ P25~
- ぐるっと真庭 まちの話題 P26~



新年も
みんな笑顔で
シシシシシ

11月29日、旧遷喬尋常小学校で真庭市内の「ごみ」を材料に制作されたモニュメント「真庭のシシ」のお披露目がありました。制作したのは真庭市出身の現代アート作家「淀川テクニック」とこと柴田英昭さん。この日、シシを見に訪れた人々は、大きさに驚きながら、笑顔でシシを眺めていました。シシは貸し出しも行っており、12月21日からは、北房ハート広場へ引っ越しました。(23ページに関連記事)

希望と元気な真庭の実現を

真庭市長 太田 昇

新年、おめでとうございます。皆様には、希望あふれる輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

まず、昨年の7月豪雨で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

私が市長に就任して6年目になります。この間、「希望と元気な真庭づくり」を市民の皆様と進めてまいりましたが、その成果が表れつつあります。これまでのご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

真庭市は昨年、全国²⁹の「SDGs未来都市」に選定され、その中で「自治体SDGsモデル」として10の事業にも選ばれました。エネルギー自給率^{100%}を目指す先進性などが認められ、中山間地域のモデルとして期待され全国から注目されています。真庭市が進めてきた方向性に確信を持ち、誇らしく、これを皆様と共有したいと思います。現在、市内の団体が実施するSDGs普及啓発活動の支援や、AIによる真庭の将来予測調査などを国への補助金を活用して進めています。このSDGsの推進が市民運動として発展するように取り組んでまいります。真庭バイオマス発電所は、売上額²⁴5億円、稼働率^{105%}と順調に稼働し、経済の循環と異業種への波及効果を生んでいます。また、新商品開発の動きや創業の機運が旺盛になっています。地域活動も活発になり、各地で空き家や遊休地を活用した交流の場の創出や地域の産物を生かした特色ある取り組みが展開されています。

一方で、昨年度は合併以来最大の762人の人口減となり、出生数も300人懸念されます。このため平成31年度予算是、持続可能な地域発展を意識して将来への投資は積極的に行い、総力を挙げて人口減少対策に取り組むための予算編成を各部局に指示しています。市民の皆様からも「真庭に帰ろう、来よう」をぜひとも働きかけていただきたいと思います。

関係、全国経済同友会など約1200人が訪れた北房小学校・こども園では、児童らが木の学び舎で希望に満ちて学んでいます。また、昨年7月に才一OPENした中央図書館に集う中高生の姿が勝山の町並みに活気を与えています。

今を生きる我々が、魅力ある真庭を創り、地域全体で子供たちを育て、未来へつないでいく、この取り組みを市民の皆様とともに英知と気概をもつて実行することで、必ずや「希望と元気な真庭」が実現できると確信しています。

なお、堤防の浸食や土砂の堆積で河川の氾濫に強い警戒心を持つています。防災・減災には行政の取り組みとともに自助、共助が大きな力になります。地域で体制をつくり、ともに災害に強いまちづくりを進めてまいりましょう。

結びに、市政への一層のご支援、協力をお願い申し上げますとともに、本年が明るく希望に満ちた年となることを祈念し、年頭のあいさついたします。



議会活性化へさらなる前進を

真庭市議会議長 長尾 修

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、真庭市にも多くの被害をもたらした7月豪雨災害では、議会においても災害対策委員会を設置して対応に努めました。幸いにも、皆様方のご協力により市内では人的被害はありませんでしたが、改めて災害に強いまちづくりの必要性を強く感じているところです。

議会では、「真庭市議会基本条例」に基づき、議会改革の新たなステージとして、平成28年度に策定した15項目の議会活性化施策を実践することで、着実に改革の歩みを進めています。

昨年は、初の試みとして、開かれた議会を目指し、桜の見頃に「議場の開放」を行い、大勢の方にお越しいただいたほか、「議会報告会+市民と語る会」を2力年度にかけて市内24カ所で開催し、401名の方にご参加いただきました。

また、前年に続き、大学教授による「議員研修会」、「政務活動費領収書等のホームページ公開」を行った上、第2回目となる「政策討論会」を開催し、「各種団体との意見交換会」等でお聞きした市民の皆様のご意見を施策に反映すべく、各常任委員会からの提案を全議員で議論

し、議会の総意として執行部への政策提言を11月に行いました。

さらに、12月定例会から、議会活動の充実と効率化を目指し「タブレット端末を活用した議会運営」を本格的に始めたところです。

こうした取り組みに対し、早稲田大学マニフェスト研究所の「議会改革度調査2017」において、全国1318議会中156位、県内では第2位と前年度から大きくランクアップしました。

昨年開催した「議会講演会」では、真庭市が「SDGs未来都市」に選定されたことを契機に、京都大学こころの未来研究センターの広井良典教授に「人口減少社会を希望に」と題してご講演いただき、真庭の目標すべき将来像について、高校生を始めとした多くの市民の皆様と共に考える有意義な機会を得ることができました。

真庭市の永続的発展に向け、議会といたましても、その役割と責任の重さを自覚し、議員一同全力を尽くしますとともに、亥年にふさわしく決意も新たに、さらなる議会活性化を目指し果敢に前進してまいります。

今後とも皆様方の一層のご指導とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が幸多き一年となりますことをお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

